

今日も生涯の一日なり より

近藤節夫『八十冒険爺の言いたい放題』～旅は人生を拓く～

友人の近藤節夫(1938年生)さんの『八十冒険爺の言いたい放題』(はるかぜ書房)を読みました。いただいた本には「旅は人生を拓く」との私あてのメッセージも自筆で書かれていました。

著者は小田急に入り、旅行会社設立に参加し、世界中79カ国を旅しているつわものです。60年安保闘争、ベトナム反戦運動への参加、そして50年以上の海外武者修行と、血の気の多い人です。「海外武者修行」というテーマでの3冊の著書以外にも、『南太平洋の剛腕投手』などノンフィクション系の著書もある。最近では死語になっている感のある、自分を磨く一人旅の武者修行というキーワードに納得する冒険譚が満載です。最近では、知研のセミナーでキューバ旅行の話をしていただいたが、示唆に富むものでした。

今回は世間を形成するメディアのていたらくへの弾効と、未来を託すべき若者への遠慮のないアドバイスが散りばめられて楽しくかつ納得することの多い本になっています。近藤さんは壁を一つ抜けたなあというのが読後の最初の感想です。「私は」でなく、「爺」という仮想の友人が主役となっていて、そのアイデアが効いている感じがします。もちろん、爺とは本人のことで、客観的な物言いになっているのがいいのでしょう。

パキスタン、チベット、ベトナム、アデン、キューバ、バイルート、リオ、サハリン、ロヒンギヤなどの旅で出会った人々との出会いや、現地をみての感慨などがつづられています。

この本では、第4章「冒険爺の生い立ち」もよかった。父方の祖父は1861年というから幕末の文久元年、母方の祖父は1881年の明治14年生まれで、そのあたりから書き出した自分史はみずからをめぐる時代の考察をふくめた記述になっています。

メディアについては、ベトナム、韓国、ロヒンギヤなどの現地の旅を通じて、現場への取材がすくなく、ほんとうのことを伝えていないと手厳しい。これは期待の裏返しでしょう。若者へは、好奇心を発揮して「武者修行」にトライせよというメッセージになっています。

人生100年時代といわれる昨今、「80代の上り坂」を歩いているという意識は貴重です。影響を受けた小田実の「何でも見てやろう」精神で行動し、今後も大いに発言してもらいたいものです。近藤さん、刺激を受けました。ありがとうございます。